

## ウスイロヒョウモンモドキの保護対策

### (1) 種名 (学名)

ウスイロヒョウモンモドキ

(*Melitaea protomeia*)

環境省 RL2018：絶滅危惧 IA 類 (CR)

国内希少野生動植物種 (H28 指定)



### (2) 生態の概要

- ・タテハチョウ科のチョウです。
- ・採草地や農地周辺、放牧地など、人為的に維持されてきた、適度に攪乱された半自然のススキ草原に生息しています。
- ・幼虫の食草はオミナエシ科のオミナエシやカノコソウです。
- ・成虫は年 1 回 6～7 月に発生し、オカトラノオ、ヨツバヒヨドリ等の花から吸蜜します。

### (3) 分布状況の概要

- ・国外では、中国、朝鮮半島、ロシア極東地域に分布しています。
- ・国内では、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県の生息地が確認されていましたが、2010 年以降、島根県の生息地では個体が確認されていません。
- ・鳥取県、岡山県内の生息地でも、一カ所を除き成虫の確認数は減少しています。

### (4) 減少の要因

かつてススキ草原では、牛馬の飼料、建築資材等に利用するための定期的な採草により、ススキや雑木等の繁茂が抑制され、本種の幼虫の食草や成虫が吸蜜する草花が豊かでした。しかし、採草が行われずに草原環境が変化したり、開発によって草原そのものが消失したり、シカによる食害を受けたり、生息環境が劣化して生息数が減少しています。

また、一部の愛好家らによる違法な採集圧も懸念されています。

### (5) 中国四国地方環境事務所の取組

平成 28 年度に各生息地での生息状況や保全活動、保全上の問題点等を調査し、保全活動団体間での情報共有のための会議を開催しました。平成 29 年度から中国地方の生息情報の収集や専門家による保全活動団体への助言等を実施しています。

また、生息地での環境改善・区域拡大のための草刈り、灌木除去、パトロール等を実施しています。

なお、環境省本省により、平成 30 年度から協力昆虫園等で飼育下繁殖を開始しています。

(6) 他機関、NGO 等の取組

各生息地の保全活動団体が生息地の草刈り、食草の増殖、灌木の除去、防鹿柵の設置等を実施し、自治体や日本自然保護協会が支援しています。

有志による生息域外保全が国内希少種指定前から実施され、放チョウが実施されている生息地もありますが、現在のところ野生個体の発生数の増加は見られません。

平成 30 年 3 月、人工的な放チョウ等を行わなくても本種が毎年自然発生し、良好な生息環境が維持されているとの理由から、岡山県鏡野町の生息地が「ウスイロヒョウモンモドキ生息地」として岡山県の天然記念物に指定されました。

(7) 課題

草原環境の維持や回復のために地域の保全活動団体による生息地の草刈り、食草の増殖、灌木の除去、防鹿柵の設置等の活動が行われていますが、生息数を増加させるためには、草刈りの頻度や範囲を拡大させるなどの取組の強化が求められます。

さらに、本種の保護対策として草刈りを行うだけでなく、持続的な刈草の利活用の方策を探ることも重要です。